



電線にとまったスズメはなぜ感電しないの

感電とは生き物の体の中を電流が通ること

電流はプラスからマイナスのほうへ流れつづけるので、発電機と電気器具との間を電気がまわるのです。このため、2本以上の送電線がはりめぐらされています。人や鳥でも、電気が体を通して流れていくためには、電気の流れこむ口と出口が必要です。かりに、2本の送電線をまたぐようにスズメがとまったとすると、スズメの体を通して電気の流れができるので、スズメは感電してしまいます。

高圧線でも鳥は感電しない

鳥が片側1本のきけんな高圧電線にとまっても、感電しません。これは、鳥の2本の足のきよりがとても短く、鳥の体に電流が入っても、ぬけ道がないので電流が流れず、感電しないのです。

ところが、1本の電線でも人がさわると感電してしまいます。これは、ふつう、人は地面に立っているために、電気は電線から体を伝って地面にぬけ、地面からまた、向こうに帰る道ができるからです。

もし、糸の切れたたこが電線にひっかかったら、自分でとるようなことはしないで、必ず、電力会社の人にたのむようにしましょう。(監修 小川 格)

